

国

語

(解答番号)

1

}

37

()

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

- この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
- 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
- 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に

10

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように **解答番号10の解答記入欄の③**にマークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

〈マーク式についての注意〉

- 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
- マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
- 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
- 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除くこと。
- 所定欄以外には何も書かないこと。

問題 1 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

細い瘠せた裸かの脛、長い栄養失調によって窪んだ暗い絶望的な眼の光り——これらはアジアの何処の植民地においても、嘗て眺めつづけられたところのものである。白い服を着た支配者の向うの地面に蹲っている被支配者の標識が、それなのであった。ところで、それらの植民地を支配していた国、例えば、イギリスの首都ロンドンの居酒屋のどれにでも私達が任意にはいつてみれば、同じ一軒のパパが一方に「労働者用」、他方に「紳士用」の二つの入口をもっていて、白い服を着た紳士の向うに劣った衣服と劣った体格さえもつたひととびとが群れ並んでいるのを眺めることができるのである。民族の、階級の、身分制の壁は、現在、そこに人間がいるかぎり存しつづけているが、怖ろしいことは、その目に見え、また、目に見えぬ壁がひとびとの暗い心の奥に長くひそませられつづけていると、その壁を越えようとするところの何らかの秩序破壊は、「まったく人間のな共感も同情のかけらももたれることなしに」断罪されることである。

まさに、怖ろしいのは「或ることを思いこんでしまった」人間の心といわねばならない。そこに立っている相手が壁の向うにいる筈のもの、身分制の、階級の、人種の、信念の壁の向うに属するものだとひとたび「思いこんで」しまえば、その人間がいかにいじめられ、ついには、無惨な死にまでいたったとしても、痛惜も同情の心もかきたてられないどころか、まったく自分に関わりないこととして平然と見ているのである。私達は、秩序の裏の顔は イ 酷な暴力であると知っていたが、秩序の横向きの顔は「無関心」であることもまた知らねばならなくなった。ヒューマニズムも同情も憐憫も痛惜も抵抗も思索も、窮極において、壁のこちら側にいるもの、同じ領域にいるものあいだにだけ通ずるところの共同財産なのであって、私達の心を日常支えているものは「差別」と「無関心」なのであった。そして、王室のパレードは心よく、植民地における叛乱は忌まわしいものとして長く、長く訓練されつづけていると、貧困と飢餓の「シウチヨウ」である細い瘠せた裸かの脛、長い栄養失調によって窪んだ暗い絶望的な眼の光りも、ひとたび胸の暗い奥に堅固な壁を置いたものの心を揺すぶらないのである。

ところで、ロ 困難は、このような「非人間的な心の暗い状態」がただに私達が投げこまれていく階級社会における生活の日常によってばかりでなく、ア 私達の生存の条件の重さによっても支えられているきびしい事態にある。

つねづね私達は、古い恐怖小説や新しい映画などにおいて、怖ろしいかたちをしたさまざまな種類の多様な怪物が不意と私達の前に出現し、凄まじい恐怖に駆られた私達がその前を右往左往している情景を読んだり眺めたりしているが、これは実はそれらの「怪物」に対して適切ならざる反応といわねばならない。実際は、宇宙のなかにおける生物の歴史において、恐らく人間ほど怖ろしい怪物はこれまで出現しなかったのであって、右往左往して逃げ廻るのは実はひとりの人間が前景に現われたとき他の「生物達」がとるべきところの最も自然な反応な筈なのであった。恐らく人間ほど、自然のなかでひたすら恐れ逃げまわりつづけたはじめの弱さを一変して、「文明人」になればなるほど残忍になり、「あらゆる生物」をとって食おうと意志して、しかも、それを大半成就し実行し得たものは、生物史のなかで嘗て存しないのである。殆んどすべての生物が、その怖ろしい口のなかへとりこまれるばかりでなく、単なる娯楽で、或いはさらにまた、完全な無意味な行為として他の生物を殺すのは、生物はじまって以来、また恐らく未来永劫にわたっても、人間以外にないと思われるほどである。そして、なにを口にいられても、それらは他の生物であると心のなかで堅く「差別」されているからこそ、そこには無性の喜びこそあれ、なんらのウ 呵責も存しないのである。

このようなニ 人間が生連続のなかで、恐怖の復讐をうけるのは恐らくは当然であって、例えば、癌にかかった革命家の恐怖といった構図は、ありとあらゆる種属をとって食われようとするイ 全生物のようやく果たし得た「死のキ キンコウ」といえるかもしれない。

全宇宙史のなかにおける正真正正ロ の「怪物」となった人間は、かくのごとく、いつてみれば、暴力の連鎖においてようやく生存しているのである。ところで、私達の生の連鎖が他の死の連鎖であることがまぎれもなく私達の生存の条件であるとすれば、私達がいまとりあげるべき暴力考は、他を殺して生きることにはじまって、絶望の果てにせよ、希望に充ちた跳躍にせよ、自分を殺すところの自殺に終るところの巨大茫洋たる暴力の系列を背景の括弧としてもつたところのいわば微小

な中間地帯に存するといわねばならない。換言すれば、私達の「本来的暴力」が支えている生と死の根源と窮極は哲学、宗教、文学の窮極的な努力のみがようやくわかり得るところの課題にほかならず、ここで短く扱われる暴力考は、「他の暴力はせめるけれども、自己の暴力は合理化しようとする」作業をつねにかかさずもっているところのまさに現在の社会的、政治的暴力に限っているのである。

ところで暴力は相手とのあいだに差別の壁を置くことによって、一方は無慈悲にまで、他方は無関心にまで拡大するところの一種複合された関係であるけれども、しかし暴力の原理は、本来、相手と自分のあいだに「差別」など存せぬところの同一性から出発している。即ち、殴るものは、殴られる——これが暴力の古典的な根本原理である。

この一対一の構図のなかで対立し、対抗し、抗争する暴力の私たちは、まず腕と腕から、剣、ピストルをもつての決闘の構図へまで次第に変化してゆき、そこにより新しい武器とよりすぐれた技術がつづいて導入されるにつれて、その一対一の構図の根本原理に或る質的变化が生じてきたものの、しかもなお、一対一の構図を原理的にもちつづけようとする頑強な試みは、力の経済を旨とする政治の領域においても保ちつづけられていなくもなかったのである。

端的にいえば、それは、「ひき換え」の理論で、たとえ敵と味方の差別がそこにたもたれていても、殺される側の生命は殺す側の生命と同一の価値をもって交換されるという(注) カリヤーエフの詩的に昂められた原理、闇のなかでおこなわれる「政治的暗殺」を白昼の公然たる「明殺」にもちきたそうとする原理、暴力が向かいたがるところの「差別」をあらかじめ否定しておこうとする自己格闘の内容をもった単独者の原理、がそれである。

このカリヤーエフの原理は、その後一般化してきた組織と集団の理論のなかでいわば古ぼけた古典的な詩的原理となる運命をもつたが、さて、しかし、現代の巨大な、そのはしまで見通しがない集団のなかにおいても、暴力を支えている「差別」をなんらかのかたちで「昇華」する試みは私達のなかでおこなわれつづけているのであって、例えば、カリヤーエフの「ひき換え」の理論とまったくちがった「自覚」のかたちとしても、それは現われているのである。武田泰淳は『風媒花』のなかの主人公にこういわせている。「僕が生きているかぎり、僕はきつとある種の殺人犯の片割れにちがいないような気がする。」

この自覚の言葉はあらゆる生物を含むところの生の秩序にまで触れているのではなく、私達がそのなかで生きている社会の秩序の領域にひとまず限っているのであるけれども、(注) 私達が生きているかぎり殺戮の共犯性から免かれていないというこの認識は、実は現代における暴力論のまぎれもない一出发点にほかならないのである。カリヤーエフは殺すときに考えたけれども、武田泰淳は「殺さなくとも」「生きているかぎり」すでにそう考えたのであった。如何なるものも、すでに差別されている社会の秩序のなかに置かれてあるかぎり、殺人の共犯者なのであり、暴力は「自分」のなかで「自分」を支配している怪物にほかならなかつたのである。

(埴谷雄高『兜と冥府』による。一部改変)

(注) カリヤーエフ：ロシアの詩人で、セルゲイ大公暗殺事件の実行犯。カミュの戯曲『正義の人々』のなかで、暗殺を実行するまでのその葛藤が描かれている。

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を用いるものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- ①
- ②
- ③
- ④

(1) 1

① 外交セツシヨウ

② キシヨウ転結

③ 時代コウシヨウ

④ シンシヨウ風景

シヨウ

チヨウ

(2) 2

① チヨウリヨウ跋扈

② 源泉チヨウシユウ

③ 勸善チヨウアク

④ コチヨウ表現

(2) 3

① キンベンな学生

② キンシツな水溶液

③ 残部キンシヨウ

④ キンミツな連携

キン

コウ

(2) 4

① 条約のハツコウ

② セイコウな機械

③ ヘイコウ感覚を失う

④ コウキユウの平和

問二 空所イ、ロに入る漢字として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- ⑤
- ⑥

イ 5

① 仮

② 寡

③ 禍

④ 加

⑤ 苛

ロ 6

① 銘

② 盟

③ 明

④ 命

⑤ 迷

問三 波線部(a)、(e)の言葉の意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- ⑦
- ⑧

(a) 7

① 大胆に

② 臆することなく

③ 意を決して

④ 思いのままに

⑤ いきなり

(e) 8

① 悪びれること

② さいなむこと

③ 恥入ること

④ 問いたたすこと

⑤ かなしむこと

問九 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑧の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

15

16

- ① 人間は単なる娯楽で、あるいはまったく無意味な行為として他の生物を殺す点においても、生物の歴史のなかで独特な存在と考えることができる。
- ② 殴るものは殴られるという一対一の構図の根本原理は、新しい技術が導入されるにつれて廃れてゆき、「ひき換え」の理論に取って代わられることになった。
- ③ 植民地を支配する国々は、自国内では撤廃しつつあった身分制や階級の壁を植民地に押しつけ、そこで生じた貧困や飢餓を平然と放置してきた。
- ④ 人間は自然のなかでの生来の弱さを克服して「文明人」となったが、やがて「文明人」であることを忘れて残忍になり、あらゆる生物をとって食おうとするほどになった。
- ⑤ 暴力は「自分」のなかで「自分」を支配している怪物にほかならないという自覚は、さまざまな生物間の暴力の連鎖を断ち切るための一つの出発点となる。
- ⑥ 現代における暴力論の課題は、私たちがそのなかで生きている社会の秩序の領域に限定して、社会的・政治的暴力がなぜ永劫不変であるのかを考えることにある。
- ⑦ 身分制や階級等の壁があるところでは、同情や憐憫や思索も結局は同じ領域にいる者の間でのみ通ずるものにすぎず、そうした壁を越えるものではない。
- ⑧ 人間が他の生物におよぼす暴力は私たちの「本来的暴力」に根ざしており、そのためそこには他の生物に対する「差別」は存していない。

問題二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

ある年の真夏に、私が精神科の訪問看護に同行して重度の統合失調症の女性へと訪問したときのことである。クーラーが故障した部屋のなかに段ボールを積み上げて壁を作り、妄想と幻聴の世界に住んでいる患者さんが叫んでいた。二人の看護師はまず部屋の外から「Xさん、体調はいかがですか？ 暑すぎないですか？」と呼びかけながら、静かに患者のもとに近づいていった。もちろん目の前の患者に向けて呼びかけているのであるが、患者が果たして言葉の通りに聞き取っているのかどうかは定かでない。患者は幻聴のなかの人物に向けて罵声を浴びせ続けている。しかし看護師は、どこかにいるはずの「正気の」患者に向けて語りかけていた。患者の名を呼ぶことは、世界が(a)そこ、(b)そこ、(c)そこという変化の支点から別様に変化しうするための窓となる（そこ）なのだ。そして来たるべき世界として垣間見られるのは、患者が周囲の人とコンタクトを取り、出会いの場が拓かれるような世界だ。このような出会いの場を〔注〕マルデイネは超受容性と呼んだのだ。このような場面で「他者がそこから到来する場所」「私とあなたが共有する世界の地平」は問いとして先鋭化するのではないであろうか。

マルデイネは、統合失調症を（他者や出来事を受容し、道具と親しむための基盤としての）超受容性の喪失として定義した。しかし実践上は本質の把握ではなく、イ 統合失調症の人とのあいだで超受容性を創り出すのかという問いが重要になる（病者を診断によって対象化する精神病理学を、援助者とも一統きの社会関係全体を変化させる援助技法論へと読み替える必要がある）。

マルデイネはアルプスの峰に突然鹿が現れることで景色が一変する場面をよくとりあげる。

鹿の出現は今までの風景の配置に書き込まれるのではなく、むしろそれを消去する。鹿は出来事の間あるいは受容の場の炸裂の点、時空の原点的な点、あるいはむしろ鹿がそこに立つ開かれのなかで、空と地とその1カンゲキとが出現する瞬間＝場の原点的な点である。この出来事＝到来は——そこで自らにおいて変容された世界を開く。(Maliney, *Penser*

患者が聴き取るであろう〈そこ〉の「点」へと呼びかけることで、^(b)患者とのあいだの関係、患者が生きている世界全体を^(c)変容させることが問われている。呼びかけが届くであろう〈そこ〉は〈変化の支点〉である。それゆえ精神医学の古い教科書が禁じるのは逆に、現場の支援者は進んで妄想の世界に入り込んでいく。このことはオーブンダイアローグや当事者研究が一般的になったことで知られるようになったが、看護や福祉の実践者たちは昔からこのように重度の精神疾患の患者たちと接してきた。

ところで、〈ここ〉と〈そこ〉は対立するわけではない。人は視点を〈そこ〉に置いて見るのだ。〈そこ〉と〈ここ〉は重ね合わされる。そもそも〈そこ〉は三次元空間の発生の手前であり、そもそも居ることを可能にする場 *in situ* のことだ。〈そこ〉を開き、〈そこ〉から見ること、新たに世界が拓かれる。

呼びかけられた〈そこ〉に視点が置かれる。客観的な位置の手前にある〈そこ〉を基点として（他者へのそして他者からの）呼びかけが成立し、世界は変容するのである。あるいはおそらく正確には、このような〈そこ〉が可能になるときに居住可能な世界が生まれる。〈そこ〉は世界の発生的な起源であることになる。形・リズムが発生する基点が〈そこ〉なのだ。

しかし〈開かれ〉のなかで、何かがわたしがその「そこ」であるような仕方で現出する。無意味や意味やら、存在者や非存在者があるためには「そこ」が必要である（「*what*」がある「*is*」の「*is*」は「*what*」である）。それは明るみの「そこ」なのだ。 (Maliney *Art et existence*: 210)

看護に話題を戻してまとめよう。看護師が直面している状況は色や音響といった感覚の拡がりだけでできている訳ではない。生死と社会関係、行為からなる状況である。そしてこの状況はそれぞれの〈身体の余白〉ゆえに不可避的にぎくしゃくしてい

る。Eさんの例で考えてみると、亡くなるまですれちがっていた親子が母親の遺体に娘が手を添える場面で、遺体と手の接点を基点として世界が変容する。触覚は感覚だが、手と体が触れることを取り巻く 関係と の文脈が、この接触の核心だ。遺体に触れることで開かれる〈そこ〉が世界変容の基点となる。〈そこ〉という〈変化の支点〉を介して、^(c)死者との出会いが可能になる。子どもたちの手が母親の遺体に触れた〈そこ〉が、世界の開かれの基点となるのだ。〈そこ〉において出来事を受容が可能になる。〈そこ〉とは、〈身体の余白〉にもかかわらず複数のリズムが出会うタイミングのことであり、この出会いのタイミングと〈そこ〉という時空間の ⁽²⁾トクイ点において状況全体が組み変わるのだ。

(村上靖彦『交わらないリズム』による。一部改変)

〔注〕マルティネ：フランスの哲学者

問五 空所口に入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

24

- ① 家族 ② 位置 ③ 上下 ④ 緊張 ⑤ 権力

問六 波線部（c）の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

25

- ① 母親の遺体と理性的に直面することができるようになる。
 ② 母親の死後もこれまで通り近くに感じられるようになる。
 ③ 母親と向き合うことができるようになる。
 ④ 母親の死の原因を受け止めることができるようになる。
 ⑤ 母親の死を受け入れ、一人で生きていくことができるようになる。

問七 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

26

- ① 視点を〈そこ〉に定めることによって、〈ここ〉の問題から目を逸らし、理想的な〈そこ〉の世界に生きることが可能になる。
 ② 客観的な世界の中に存在する〈そこ〉を基点にすることで、超受容性をつくり出すことが可能になる。
 ③ 世界の変容の基点となる〈そこ〉が可能になるとき、居住可能な世界が生まれる。
 ④ 出合いの場において、他者性を取り除き、道具と一体化する超受容性が必要とされる。
 ⑤ 統合失調症の人との超受容性を回復するために必要なのは、客観的な現実である「ここ」とは重ならない〈そこ〉への介入である。

問題三

次の各問に答えなさい。

問一 文章が一通りに限定されるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

27

- ① 運転が得意な父と母が交代で車を運転して名古屋まで帰省した。
 ② 行きつけのカフェで勉強している学生に教えてもらって問題の答えがわかった。
 ③ 大きな犬は真つ直ぐに飼い主が投げたfrisビーを追いかけ走っていた。
 ④ 新進気鋭のデザイナーは鮮やかな色使いの服を披露しショーを盛り上げた。
 ⑤ 駆けつけた店員は無言でレジに並んでいる客の商品の精算を始めた。

問二 小説などの文芸作品における表現の場合を除き、日常の日本語表現としては適切でないものを、次の①～⑦の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし解答の順序は問わない。

28

29

- ① 冷静に自分自身を分析することができていたので、どのような質問にもうろたえずに答えられた。
 ② 上司に報告書を厳しく点検されると思っていたら、かえって細部まで精査された。
 ③ この町の職人たちが長年受け継いできた技術やデザインは、観光客やバイヤーから高い評価を受けている。
 ④ よしんば今年度のプロジェクトが成功しなかったとしても、得られる経験や学びは決して無駄にはならない。
 ⑤ 秋田県と青森県にまたがるブナの原生林は世界最大級の規模であり、世界自然遺産に登録されている。
 ⑥ 監督は怠慢なプレーを続けた選手を呼び出し、衆人環視の中で厳しく叱りつけた。
 ⑦ 旅先では、おいしい料理や観光名所を巡ってたくさんのお出でができた。

問三 (1)～(3)の傍線部(a)～(c)について、表記または言葉の使い方の正誤の説明として最も適切なものを、それぞれ①～⑧の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

30

32

- (1) (a)適性体重を(b)過剰すると健康リスクが高まるため、(c)定期的に体重を確認しよう。
- ① (a)だけが誤り ② (b)だけが誤り ③ (c)だけが誤り
 ④ (a)と(b)が誤り ⑤ (a)と(c)が誤り ⑥ (b)と(c)が誤り
 ⑦ (a)と(b)と(c)が誤り ⑧ 誤りはない

30

(2) この^a寂れた庭園でも、バラが^b見頃の時季になると、^c勲賞に訪れるファンがいる。

31

- ① (a)だけが誤り ② (b)だけが誤り ③ (c)だけが誤り
 ④ (a)と(b)が誤り ⑤ (a)と(c)が誤り ⑥ (b)と(c)が誤り
 ⑦ (a)と(b)と(c)が誤り ⑧ 誤りはない

(3) 新たな感染症の^a恐威から国民の健康を守るべく、入国者への^b研究を強化し、ウイルスの^c挿入を防いでいる。

32

- ① (a)だけが誤り ② (b)だけが誤り ③ (c)だけが誤り
 ④ (a)と(b)が誤り ⑤ (a)と(c)が誤り ⑥ (b)と(c)が誤り
 ⑦ (a)と(b)と(c)が誤り ⑧ 誤りはない

問四

慣用表現を用いた(1)～(5)の文の空所に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

33

37

(1) 試合中、審判から不公平な判定を受けた選手は怒り心頭に^a抗議した。

33

- ① 発して ② 及んで ③ 上って ④ 入って ⑤ 放って

(2) 新しい政党は理念も政策も曖昧で一貫性がなく、まるで^aの衆のようだ。

34

- ① 有象 ② 海干 ③ 雲散 ④ 烏合 ⑤ 右往

(3) このオウムは、彼女が歌っていると必ず合いの手を^aくる。

35

- ① 打って ② 返して ③ 入れて ④ 掛けて ⑤ 挟んで

(4) 原稿の提出期限を過ぎてしまい、編集者から^aの催促を受けている。

36

- ① 槍 ② 檄 ③ 刃 ④ 火 ⑤ 矢

(5) 大臣はわざと話題をそらして^aを張り、記者たちの厳しい追及から逃れた。

37

- ① 暗幕 ② 煙幕 ③ 劍幕 ④ 倒幕 ⑤ 黒幕